杉二だより

令和５年度　７月号
杉並区立杉並第二小学校
〒166-0016 杉並区成田西 3-4-1
TEL　03-3313-0564
http://www.suginami-school.ed.jp/sugi2shou/

「失敗じょうず」に育てませんか

子供の教育に関しては学校に対する社会全体の目が厳しくなってきているせいかもしれませんが、最近気になるのは、子供の「失敗」を許してはいけないというそんな雰囲気が感じられることです。

本来学校というのは、子供がたくさん失敗の練習をするところで、そこからさまざまな生きる力を学ぶ場所ではないでしょうか。

それは家庭でも同じことで、家や学校でも失敗が許されないとしたら、子供は一体どこで失敗の練習をすればいいのでしょうか。

もちろん、「取り返しのつかないような大きな問題は未然に防ぐもしくは避けなければならない」ということを大前提とした話です。

ある専門家が、以下のようなことを述べられています。

脳を育てるというと、勉強させることだけと考える人が多いのですが、脳というのは、身のこなしから、ものの見方、考え方、あるいは聞こえ方、あるいは行動、人間関係といったあらゆるものがその働きと考えられているそうです。そういう脳の働きは、すべて生まれてからあとの経緯で、育ってゆきます。その成長は、「失敗」「むだ」といったことをくりかえしながら、だんだん育っていくというのが原則です。したがって子供は、なんでもやってみては失敗するのです。

学校に置き換えると、その体験こそが生きる力の土台となります。結果、子供自身が、そうした「むだ」や「失敗」をくりかえすことでこれからの社会を生き抜いていくのに必要な粘り強く挑戦する力や意欲が育っていくと。

自ら命を絶つ若者が後を絶たないといわれて久しいこの頃です。このような状況を見聞きするたびに愕然とすることは、実際これら若者が「命の尊さ」について考えたことが全くないような不束者であったかというとそうではなく非常に真面目であったという事実もあるということです。もちろん心理的な要因、環境的な要因等々は多々あったと思いますが、ふと思うのは、実際にこのような若者がその成育歴のなかで、「むだ」や「失敗」をいっぱいしてきだろうかということです。失敗してもいい。むだなことをしてもいい。失敗してもむだなことをしてもそれは決して価値のないことではないと認めてあげる。大切なのは、次に何をするか、もしくは、何ができるかであると伝えてあげる。

もしかしたら、彼らを取り巻く大人が敢えて、成長の機会となったかもしれない課題や障害などを親切に丁寧にどけ続け、「むだ」なことを省くことを推奨し続けてきたのではないか。結果、「失敗」の練習をいわばしてこないまま成長してしまったのではないかということです。

そんな「命の耐性」ということに思いを馳せると、私たちができることはまだまだたくさんあるような気がしてなりません。

本校では、「特別の教科道徳」の授業等で、「生命尊重」についてあらためて考え、討議し、学びながら、自分の生き方について考える場を設定しています。また道徳教育は、学校全体の教育活動においても重視しながら児童の成長を見守っていっています。

「失敗は成功のもと」

私たちは子供の「むだ」や「失敗」を見守りながら、次にどうしたらよいかを示唆できる存在でありたいものです。

７月のあいさつ標語

○あいさつで　元気のみなもと　チャージしよう

4年　児童作品

○うれしいな　マスク無しでの　あいさつは

5年　児童作品

７月の生活目標
「教室をきれいにしよう」

１学期もあっという間に過ぎて、夏休みを迎えようとしています。学期末へ向けて、身の回りを整理しています。きれいな教室には、きれいな心が育つと言います。「１学期のよごれをきれいに落とす」「整理整頓をする」「荷物を持ち帰る」など、計画的に進めて、気持ちよく夏休みが迎えられるように各クラスで指導していきます。